

Youth
Women
Disabled
Farmers
Ainu People
Researchers
Business
NGO/NPO
Cooperative
Local Community

研究者グループの紹介

世話役：山中康裕



研究者グループは、充電期間中

昨年度：UN75の「3つの問い」に回答しました。

今年度：ので、お休み中。しかし…

今日の話：

①未来の作り方：

バックキャストिंगの概念整理：やること・仕組み作り = 速度・加速度

②気候次世代100人会議in北海道：

既存の仕組みと接続する10-20歳代世代の声の届け方

③「〇〇村の未来づくり」プロジェクト：

分野・大学・世代横断主体による提案

①欲しい未来(場所)へ②行く(速度には③新しい仕組み(加速度)を生み出す

10年後→今あるやり方(何もせず)で行くと→待っている未来が…【forecasting】

30年後→新しい仕組み(加速度)で行くと→欲しい未来を…(with 世代交代)【backcasting】

仕組みづくり

2030までに作る必要あり



年功序列的発想: 年長者の責任 (今の60~40代) 未来は引退しているからな... (50~30代) 君たちは待っていてね... (40~20代) 世代交代して30~10代

現世代(年長者)が、まず「新たな仕組み(加速度)を作る義務(しなければ「不作為の罪」) → 最初の一步: 多世代での決め方 → 多世代で新しい社会を決める

高校の物理基礎で習うこと
 Δ 場所 = Δ 時間 × 速度
 Δ 速度 = Δ 時間 × 加速度

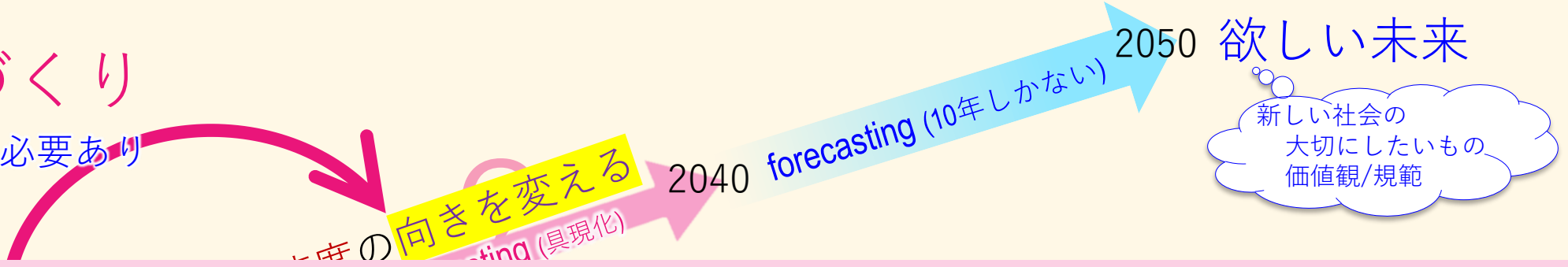
①欲しい未来(場所)へ②行く(速度には③新しい仕組み(加速度)を生み出す

10年後→今あるやり方(何もせず)で行くと→待っている未来が…【forecasting】

30年後→新しい仕組み(加速度)で行くと→欲しい未来を…(with 世代交代)【backcasting】

仕組みづくり

2030までに作る必要あり



本日のメジャープロジェクトも
そういう活動と理解しています

現世代(年長者)が、まず「新たな仕組み(加速度)を作る義務(しなければ「不作為の罪」)
→最初の一步: 多世代での決め方 →多世代で新しい社会を決める

高校の物理基礎で習うこと
Δ場所 = Δ時間 × 速度
Δ速度 = Δ時間 × 加速度

えっどうやるの!?!? → ヒント 🤗 (ごくごく簡単な例)

例① SWOT分析

強み(S)	弱み(W)
機会(O)	脅威(T)

SWOT分析の良さ：
外的要因を明示/顕在化

自ら決められない要因 →

- 短期的には与えられた境界条件
- 長期的には複数シナリオ
(外的要因をしっかりと考えて対応策)

OTの例：Society 5.0(カーボンニュートラル&自動運転の車, 5G/6G)
エネルギー・食料の輸入(≠地産地消), 米中対立

参考: IPCCの将来予測では、なりゆきシナリオからパリ協定1.5°Cシナリオまで

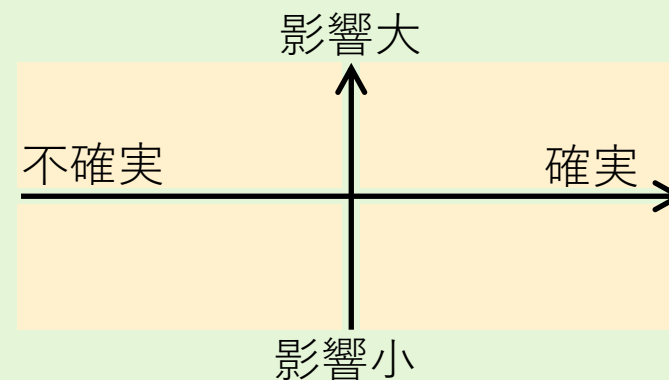
そんな車ができるんだったら、公共交通機関の存続やカーシェアリング等の努力をしなくてもいい!?!? その費用は大丈夫?

例② シナリオプランニング

現在起こっている予兆を挙げ、影響力や不確実性を考えて整理

4つの象限毎に、どのような未来が有り得るか?

目指す未来像への必要な戦略・対応の策定



② 気候次世代100人会議 in 北海道

11.2 道庁から打診

11.5 道庁の正式依頼

12.18 オンライン意見交換会(79人参加

→19校所属42人+社会人2人意見回答)

1.6-30 アンケート(240人回答)

1.31 道庁へ報告書提出(97頁)

2.8 北海道環境審議会温暖化対策部会で報告
(私・高校生・大学生)

報告書は
ダウン
ロード出
来ます。



2030年アジェンダなど、バックキャストिंगの問い→UN75

10-20歳代世代に聞く → バックキャストिंगの枠組みでの意見聴取

国連100周年となる2045年を考える対話：国連75周年の3つの問い

1. 私たちはどのような未来をつくりたいのか。
2. それを実現できる目途は立っているか。
3. そのギャップを埋めるためには、どのような行動が必要か。



一時間半のグループトーク → 答えやすい問い

本研究で用いる問い

1. → 「あなたは何を大切にしているか、生きがいは何か」
「どんな社会になっていて欲しいか」
 2. → 「希望に感じていること」
 3. → 「不安に感じていること」
- 今回は行動は問わない

オンライン意見交換会：気候次世代100人会議in北海道

日時：12月18日14:00-16:30

参加者：10-20歳代(46人) 高校教員等(9人)
道庁職員等(4人) 運営メンバー(20人) 計79人



2.8 北海道環境審議会 温暖化対策部会



報告書は
ダウンロード出
来ます。



北海道庁への報告書：

2050年ゼロカーボン北海道に向けた
10-20歳代世代の意見について



2022/1/31*

北海道大学大学院地球環境科学研究院教授 山中康裕

PractiSE 北海道大学 大学院環境科学院 環境紀学専攻 実践環境科学コース SDGs Thinkers An education program in Hokkaido, Japan

* 2022/2/1 一部の箇所の凡例の誤りを修正しました。

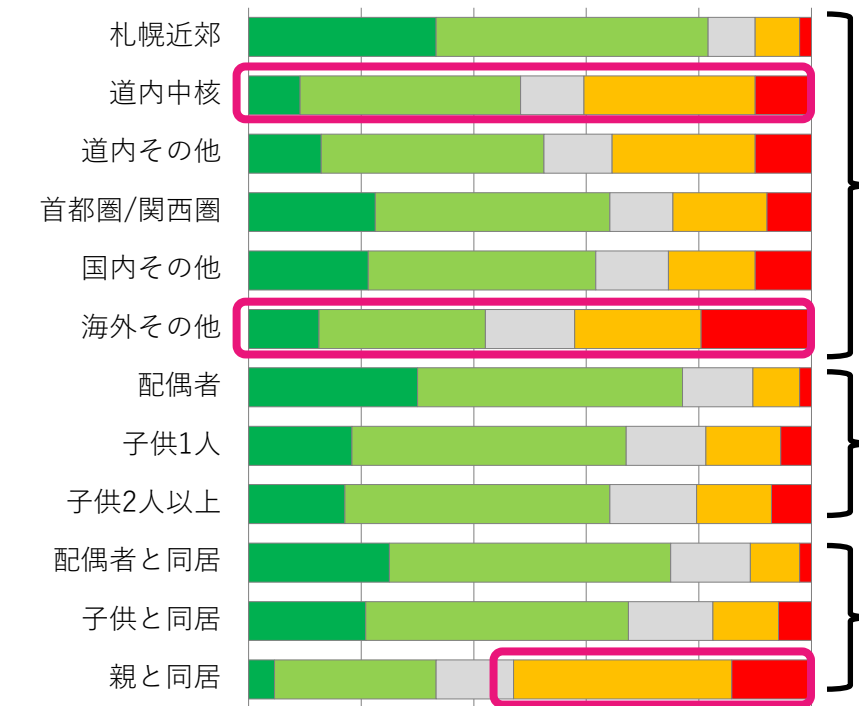
2050年大切にしたい/欲しい/希望と不安

2050年大切にしたいこと

道内中核都市は、海外並の可能性

2050年 住んでいるところ、
家族構成、同居家族

0% 20% 40% 60% 80% 100%

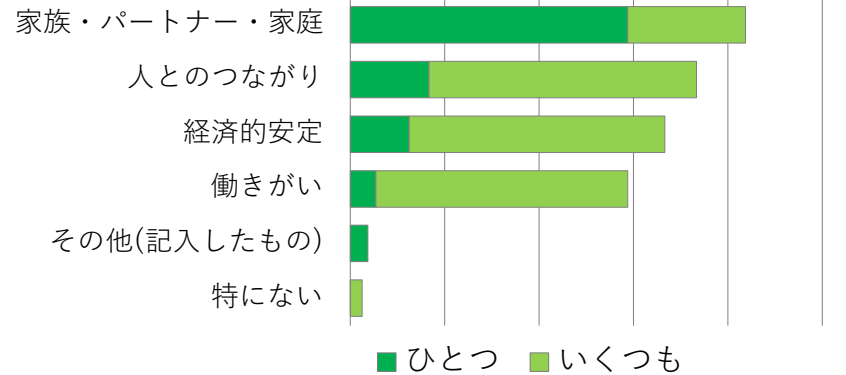


科学技術は希望だが 欲しい社会ではない?

将来に向けて

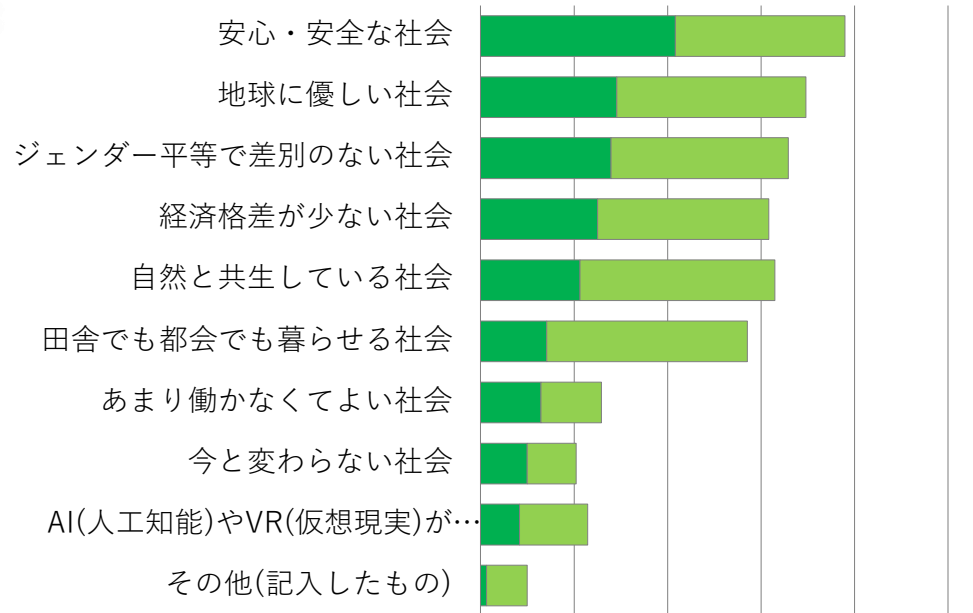
←不安に感じている 希望の感じている→

-80% -60% -40% -20% 0% 20% 40% 60% 80%



2050年欲しい社会

0% 20% 40% 60% 80% 100%



話し合う場は必要か/話し合いたいことは何?

アンケート前には、想像出来なかったこと

ジェンダー平等が第一位
科学技術・農水産業が低い

次のアンケートでは、深掘りしたい

話し合う場は必要か

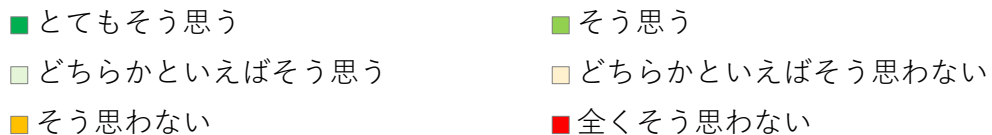
0% 20% 40% 60% 80% 100%

10-20代の意見を聞く場は必要

様々な世代の意見を聞く場は必要

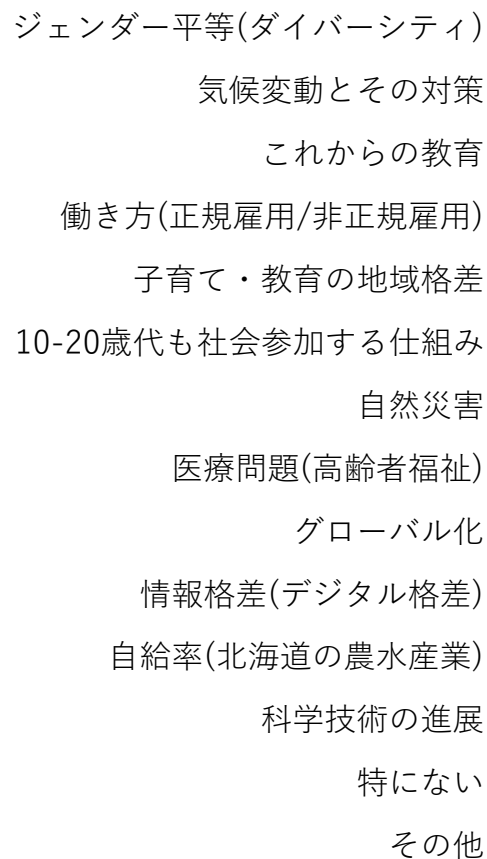
ボランティアでも参加したい

アルバイトなら参加したい



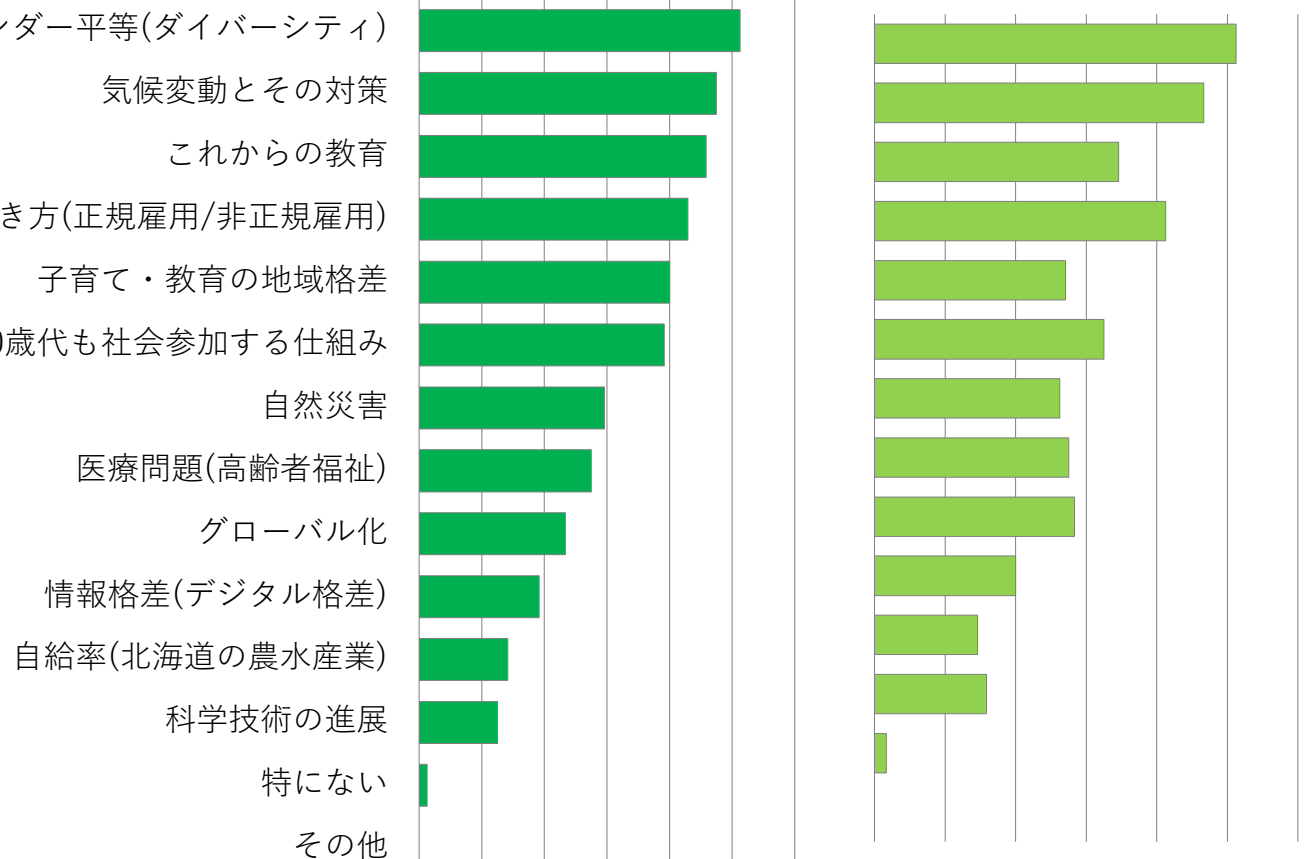
話し合いたい

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60%



学校で学びたい

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60%



■ 話し合いたい

■ 学校で学びたい

③ 「〇〇村/町の未来づくり」プロジェクト = 仕組みづくり

コンサルトは違う強み&弱み：学生(10-20歳代世代のガチの参加)

●●大学として…とかそういうプロジェクトじゃなくて…

「自治体/企業/住民」からの依頼を「**仲間の研究室の緩やかな連合体**」が受注する。

研究者グループメンバーを中心に…

(依頼自治体レベルでメンバー規模はいろいろ?)

コーディネート(SDGs)・地域交通/公共交通・地域福祉・保育制度/教育行政・…

事業(1) 〇〇村での調査の仕組みづくり

様々な横断的調査(聞き取り/アンケート)

事業(2) 住民によるグループづくり

住民会議 w/ ファシリテータ

事業(3) 学生企画の調査・イベントの実施

あまりにもバラバラな学生から何が生まれるか?

数十万円～数百万円のプランを用意…(ご希望に合わせてお見積もり…)

予備調査…本格調査…などなど、未来づくりのお手伝い…



ご清聴ありがとうございました。

今日話した内容の多くは、YouTube山中先生チャンネルで、簡単、かつ、5-8分間で説明しています(登録してね🙏)

